

令和5年10月13日

旭小学校保護者様

鳥栖市立旭小学校
校長 木村 嘉身

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果概要について（お知らせ）

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その調査結果をもとに本校の結果についての分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 令和5年度全国学力・学習状況調査について

令和5年4月18日、下記のような内容で全国一斉に小学校6年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、算数）
出題範囲…原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
出題内容は下記①と②を一体的に問われています。
(2) 生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率として見える本校児童の姿

(1) 国語科について

全体の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っていました。

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容において全国平均正答率を上回っています。特に「文章の中で適切な漢字をつかう」、「目的を意識して要約する」点が優れています。
- ・「書くこと」の内容において、メモの空欄に当てはめる問題が全国平均正答率をやや下回る結果でした。

今後の手立て1

メモをとるときのコツを学ばせるとともに、総合的な学習の時間等において学んだ学習内容を活用していくように指導していきます。

(2) 算数科について

全体の平均正答率は、全国平均正答率をやや下回っていました。

- ・本校及び全国平均正答率、県平均正答率とともに、正答率が最も低い問題は「椅子4脚の重さが

7 kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く」でした。日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる2つの数量関係について考察できるか、が出題の趣旨の1つです。主な解答類型は2つです。1つ目は、48脚が4脚の12倍であることなどを求め、椅子の数が12倍になると重さも12倍になることなどを用いて、48脚のときの重さを求めるというやり方です。解答例は「いすの数は、 $48 \div 4 = 12$ で、12倍になります。いすの数が12倍になると重さも12倍になるので、48きゃくの時の重さは、 $7 \times 12 = 84$ で、84 kgです。答え 84 kg」です。2つ目は、1脚当たりの重さを求め、1脚当たりの重さを用いて、48脚のときの重さを求めるやり方です。解答例は「1きゃくあたりの重さは、 $7 \div 4 = 1.75$ で、1.75 kgになります。48きゃくの重さは、 $1.75 \times 48 = 84$ で、84 kgです。答え 84 kg」です。

- ・次の問題の正答率も最も低い問題の1つです。「30%について考えます。割合が30%になるものを、下のア～オまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。ア 100人をもとにした0.3人の割合 イ 100人をもとにした3人の割合 ウ 100人をもとにした30人の割合 エ 10人をもとにした3人の割合 オ 30人をもとにした1人の割合」という問題です。日常生活の場面と関連付けて、百分率で表された割合について理解していること、が出題の趣旨の1つです。正答は、ウとエです。

今後の手立て2

この2つの設問の誤答傾向から、次の手立てを講じていきます。1つ目に、基礎・基本の徹底です。割合の問題は「割合とは何か」を理解しているかどうか問われる問題です。各単元で学ぶ学習用語、基本的な問題を確実に解くことができるように、復習問題を充実させます。2つ目に、学習場面において自分の考えを式と言葉で表現させます。論理的に説明できるように、考えの表し方を指導していきます。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える児童の姿

- ・朝食を食べる、毎日同じくらいに寝ている・起きているにするに関する質問では「できている」と回答している児童が多くいました。この回答率では、基本的な生活習慣が身に付いているといえそうですが、起床・就寝時刻がわからないため、詳しく調べる必要があります。また、将来の夢をもっているか、人の役に立ちたいと思っているかの質問に、肯定的に回答している児童が多く、自己肯定感、有用感が育まれつつあるのがわかります。
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしているか、授業以外にどのくらい勉強をしているかの質問では、よくできている、できるの回答が全国と比べてやや低いようです。

今後の手立て3

自分の課題を知り、自分の課題を解決する方法を自分なりに考え、実践していく児童に育ていく必要があります。そこで、計画的に家庭学習に取り組ませる方法や自主学習の取り組み方を指導・支援し、少しずつ取り組ませています。

4 おわりに

- ・全国学力学習状況調査の目的は、児童の教育指導の充実や学習状況の改善に役立たせるものです。各学級の実態に応じて、上記に掲げた3つの手立てを講じていきたいと考えています。今後、学校の授業、家庭学習等、お悩み等ありましたら、いつでもご相談ください。